

旅で出会った仏たち

旅行や出張の際に各地で出会った仏たちを紹介します。
(京都是元の居住地なので除外します)

史蹟探訪部5期生 大澤孝明

1. 勢至菩薩に会いにパリへ行く – 法隆寺阿弥陀三尊の勢至菩薩はどこに？
2. インドの仏像に会いに行く：サールナートの初転法輪像, 巨大なストゥーパ
3. ボストン美術館へ 快慶の弥勒菩薩 に会いに行く
4. 日本で仏像はどのように地方に根付いたか – 地方仏の事例
 - [1] 円空 – 12万体の木造仏を作って即身成仏した男
 - [2] 木喰 – 微笑する仏；僧に似て僧に非ず、俗に似て俗に非ず
 - [3] 九州・臼杵の磨崖仏 – 国東半島は「ほとけの国」
 - [4] 国東半島(ほとけの里)の仏像 – 地方仏師の造仏力
 - [5] 伊豆の仏像 – 運慶は奈良から伊豆へ行って 何を作った？
 - [6] 鎌倉の仏像 – 住職「仏オタク」を叱る
 - [7] 中尊寺 金色堂 – さみだれの降り残してや光堂・・・っていつのこと？

[1] 勢至菩薩に会いにパリへ行く

– 法隆寺金堂 阿弥陀三尊の勢至菩薩はどこに？

■ 法隆寺金堂(西の間)の阿弥陀三尊のうち、勢至菩薩像は承徳年間(1097-98)に盗難された。

■ 1232年に、運慶の四男・康勝が古様式を模して造像。

[光背銘文による]

[注] 同じ阿弥陀三尊でも、教科書でよく見る大宝蔵院の伝・橘夫人念持仏とは別です。

● 康勝の勢至菩薩の復元像は、明治以来、行方不明でした。
⇒それが意外にも **パリの美術館の収納庫で発見**されました。

■ 筆者は報道後に、出張の機会を利用して、**パリのギメ東洋美術館**へ行きました



衣紋の左右対称性など、全体的に一見、飛鳥仏のような印象ですが、これは擬古的な様式で作られたためです。

ギメ国立東洋美術館とは？



- パリ・セーヌ川右岸に建っています。
- エミール・ギメ**が明治の**廃仏毀釈**の時代に日本で収集した仏像などを収蔵。日本のほか、インド、ガンダーラ、中国、朝鮮半島の仏像も多数収蔵。
- 1989年 **ベルナール・フランク**教授が収蔵庫で**勢至菩薩像**を発見しました。
- これが法隆寺の紛失仏であることを、仏教美術史学者**久野健(くのたけし)**氏が現地を確認し、その後、文化財審議会で承認されました。

エミール・ギメってだれ？



フランスの実業家・古美術収集家。明治9年、日本で600体以上の神仏像などを収集しました。しかし、高田良信師によると、法隆寺を訪問したという公的な記録はなく、**勢至菩薩像**の入手経路は不明とされています。

ベルナール・フランクってだれ？

フランスの東洋美術学者（1927-1996）。コレージュ・ド・フランスの日本学教授。1989年 **ギメ美術館**収蔵庫で法隆寺の**勢至観音像**を発見。夫人は日本人の**仏蘭久淳子氏**（画家、翻訳家）。



日本の仏教世界に関する学術的な研究書（約400p）



“Le Panthéon Bouddhique au Japon”

勢至菩薩 はいつごろ法隆寺から失われたのか？

- 天保7年（1836）には間違いなく存在していた
[斑鳩古寺便覧に記述あり]
 - 明治21年（1888）の法隆寺文書では、阿弥陀如来の
脇侍仏が木造に変わっている
[法隆寺伽藍仏像及び什宝番号]
- **1836年～1888年の間** に法隆寺から失われたと
推定される [久野健氏論文（1992）による]

勢至菩薩を日本に返還してもらおうべきか？

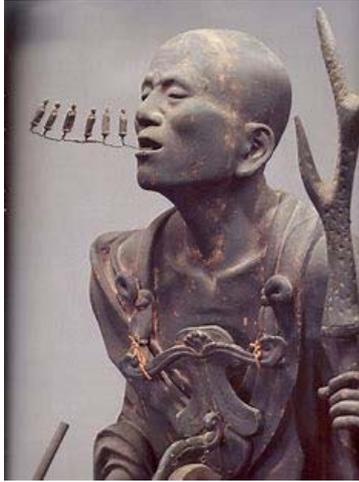
- 1994年、奈国博の「国宝法隆寺展」で三尊揃って展示された（‘お里
帰り’）。筆者もこのとき三尊を間近で拝観しました。
- この機会に日本にお帰りいただくことはできないかとの声も
－ 違法に流出したものでないので返還は無理。
－ 代わりに精巧なレプリカを法隆寺に納めた。
- 「廃仏毀釈」の危機の時代を「フランス亡命」で切り抜けた、
と考えれば？（私見）

[Q] ベルナール・フランクは どうしてこれが 勢至菩薩だとわかったのか？

法隆寺の阿弥陀三尊の脇侍「観音菩薩」と「勢至菩薩」は大変よく似て
いる(像高68.5cm)。次のどちらが観音/勢至菩薩か、識別できますか？



[Q] 鎌倉時代に勢至菩薩を復元造像した
運慶の四男「**康勝**」は他にどんな像を造った？



京都・六波羅蜜寺の**空也**像



東寺 御影堂 弘法大師坐像

ギメ東洋美術館：その他の優品(例)



京都・東寺 立体曼荼羅の模像



毘沙門天像

[2] インドの仏像 : ガンダーラとマトウラー

● ブッダも当初は偶像崇拜を否定。ゾロアスター教を奉じる騎馬民族クシャーン帝国支配下で、偶像は破壊。しかし、民衆は仏教の再興を願って目にみえる仏が作り始めた。

⇒ **ガンダーラ仏、マトウラー仏**: AD1世紀(ブッダ入滅後500年)ごろに造像。



ガンダーラの初期法輪



梵天(帝釈天)勧請



仏の姿が初めて表象された



・ガンダーラ仏 (ギリシャ・ローマ的)



・マトウラー仏
・インド・アジア的な風貌

どちらが本物の
仏陀に近い?

●日本では、東大寺の僧 **喬念** (ちょうねん) が**986年に** **宋**から請来した像が、**釈迦生存中**にその姿を写した像として信仰されている (**清涼寺式釈迦如来**)。

■台座の墨書銘より、觀尊の弟子・**忍性**(1217-1303,竹林寺に墓)のもとで、**仏師玄海***が制作したとされています。

●奈国博「**なら仏像館**」で見ることができます。

●ガンダーラ仏やマトゥラー仏に比べて外見は人間らしいが、年代から考えて、実物の釈迦に近いといえるかどうか？

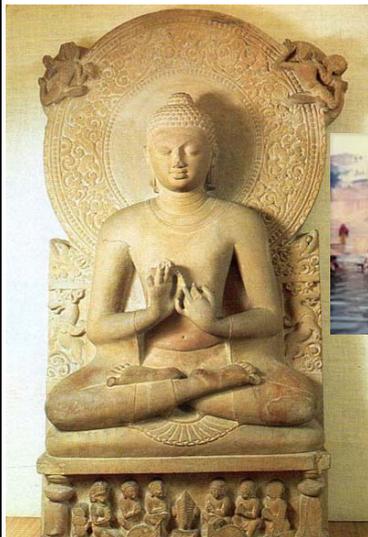


***玄海**の詳細は不詳。

[学説1] 西大寺伝によると、1249年に仏師・**善慶**に模刻を作らせ西大寺四王堂に安置したという。

[学説2] 後白河法皇の命により「巧匠」**快慶**が模刻したという学説も(奈国博・谷口耕生室長)。

[2] インドのブツダに会いに行く



ヒンディ教徒のガンジス川沐浴場 (ガート)



サルナート 初転法輪像 (人間らしい!)

ダーメク ストゥーパ (卒塔婆) →
8分された仏舎利を収納 (仏塔の起源)



日本の多重塔 (卒塔婆) の構造



[3] ボストン美術館へ
快慶の弥勒菩薩に会いに行く

Boston Museum
of Fine Arts
Massachusetts,
USA



- 快慶 (1150-1250) が若い頃に単独で造立した弥勒菩薩 (像内納入品より1189年造立と推定されています)
- もとは奈良・興福寺の仏像
明治の廃仏毀釈の時代に、フェノロサと岡倉天心らが、破壊を免れた仏像など10万点の文化財をボストンに運んだ。

弥勒菩薩 (日本にあれば国宝級とも) →



Postcardより

快慶の作品くらべ

[初期作]



[Boston美術館] 弥勒菩薩立像
●動的・曲線的・装飾的

[晩年作]



[唐招提寺 西方院] 阿弥陀如来立像
●静的・非装飾的 老成 (収蔵庫に保管)

[4] 日本で仏教はどのように地方に根付いたか

- 「奈良はシルクロードの終着駅」？ 国家鎮護から庶民救済へ
インドで生まれ、北伝ルートを通して日本に伝えられた仏教（蕃神=外来神）は、日本の風土と空気の中でどのような変容をうけ、伝えられ、根付いたか
- (事例4-1) 円空 12万体の仏を彫って64才で即身成仏した男(1632-1695) 美濃国生れ 全国を遊行 山岳信仰と習合



円空 自刻像 (千光寺 岐阜県高山)



木っ端仏

素材も技術(鉋彫)も素朴だがそれゆえの表現力

庶民の生活に浸透する円空仏

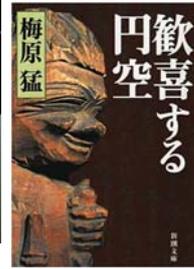


如意輪観音(正宗寺, 飛騨高山)



●子供らと一緒に谷川で遊んで傷だらけになった薬師仏

●飛鳥仏とも平安仏ともちがう庶民のほとけ



<https://sousekisan.exblog.jp/26595644/>

奈良県にある円空仏

寛文12年～延宝3年の間に大峯山に二度入峯し、山上ヶ岳などで越年修行の際に彫仏した(栴尾観音堂蔵) *「円空」(朝日新聞社 1994年)によると県内に8体あり。



天川村 聖観音像



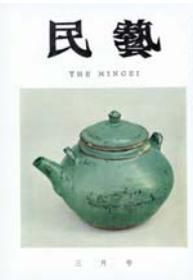
天川村 護法神

<http://small-life.com/archives/15/03/0321.php>

(事例4-2) 木喰 — 微笑するほとけ

木喰：穀物を絶つ戒を受け、北海道から九州まで遊行し、千体の微笑(みしょう)仏を彫る。(江戸後期、1718-1810)

「民藝」運動を進めた**柳宗悦**(むねよし)が山梨県の村長の蔵で発見(大正13年)



地藏菩薩 (山梨県丸畑)



ビンズル尊者 (自刻像、長岡市)

木喰の「十六羅漢像」 (南丹市清源寺)

「衆生にして菩薩、
菩薩にして衆生」(柳宗悦)
「似僧非僧、似俗非俗」
(十六羅漢由来記・清源寺)



酒樽を抱えて茶碗酒

<http://shigeru.kommy.com/mokujiki5housyouji.html>

(事例4-3) 九州・臼杵の磨崖仏



大日如来 (国宝) 平安後期～鎌倉時代



臼杵磨崖仏群 (立体彫り)

**当尾わらい仏
勢至菩薩 (レリーフ)**

(事例4-4) 国東半島 (ほとけの里)の仏像



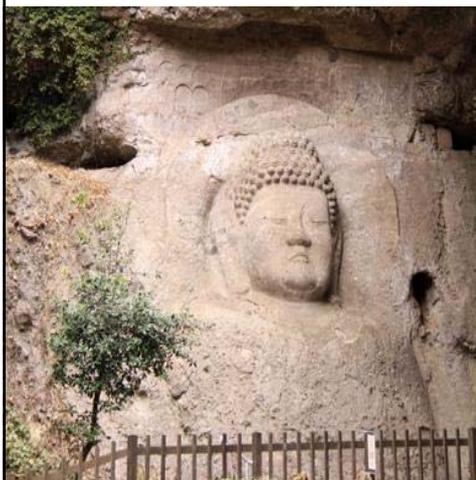
真木大堂 阿弥陀如来(平安時代)



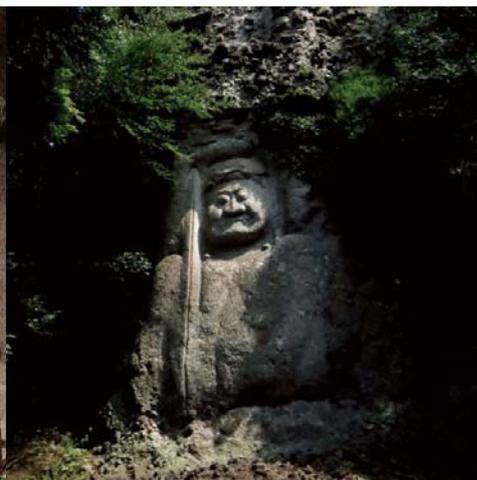
大威徳明王
(戦いで勝利を祈願する)

高い造仏技術!

「ほとけの里」の熊野磨崖仏



大日如来



不動明王

<https://intojapanwaraku.com/travel/2223/>

(事例4-5) 運慶は伊豆へ行って何を作った?



願成就院 不動・弥勒如来・毘沙門天 (伊豆の国市) (PEN誌2017/10/1より)

マハ・ヴァイロチャナとは?



願成就院 (静岡県伊豆の国市) の
不動明王・矜羯羅童子・制吒迦童子
・大日如来(マハ・ヴァイロチャナ)の化身
・北条時政が源頼朝の奥州藤原氏征討
を祈願して建立(運慶作、Postcardより)



インド神話のシヴァ神 (ヒンズー教)
・破壊(暴風雨)と創造(雨で植物を育てる)
・Maha-Vairocana (華嚴宗では毘盧舍那仏;
密教では大日如来、起源はバラモン教?)

(事例4-6) 鎌倉の仏像 — 住職 仏オタクを叱る



北条寺(北鎌倉) 阿弥陀如来



北条寺 観音菩薩遊戯(ゆげ)坐像



奈良国立博物館(平26年)でも展示されました



東慶寺(縁切り寺) 水月観音
遊戯坐 (宋風文化)

(事例4-7) 中尊寺 金色堂 (岩手県平泉)



(改) さみだれの降り残してや光堂

(旧) さみだれや年々降りて五百たび

(芭蕉)

奥州藤原氏(清衡, 基衡, 秀衡)の墓所 定朝様式寄木造り

- 「時代の粹」「地域の粹」をとりはずした広がりの中で見えてくることがあります。
- 仏像にはそれを育くんだ風土と人間がしみついています。
- それを読み解くことが、時空を超えて仏像と出会うことの楽しみです。



衿羯羅童子像
(日光市清滝寺)